

診療局：健康管理センター

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
センター長	南谷 かおり
副センター長	増田 大作
非常勤医員	馬場谷 美知子
応援医師	葛城 有希子
看護師	西丸 二三代
保健師	岩岡 文夏 (産休)
保健師	八嶋 茉莉
臨床検査技師(兼務)	藤本 ひかる

—概要—

健康管理センターは常勤医員2名(南谷医師・増田医師)、非常勤医員1名(馬場谷医師)に加え、応援医師1名(葛城医師)、看護師1名(西丸看護師)、保健師2名(岩岡保健師産休中、八嶋保健師)、臨床検査技師(臨床検査科より派遣)2名、および医療マネジメント課1名、事務員3名にて業務を行っている。ドック関連としては、従来の人間ドック、脳ドック、乳がん検診などに加え、アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査および事後の精密オプション検査、市民大腸がん検診や骨粗鬆症検診、アレルギースクリーニング検査(MAST36)を実施している。健康診断としては、協会けんぽや特定健診などの法定健診を中心として、そのほかの特殊な健診として特殊健診(有害物質への対応)、指定航空身体検査(パイロット健診)、睡眠時無呼吸症候群の簡易スクリーニングなどを行っている。一昨年度システム導入、検査室開室により検査の効率化と受診者の負担軽減が可能となったが、COVID-19蔓延のため受診者数の減少、感染回避へのリスク対応などが追加となった。

人間ドックは完全予約制で月・水・金曜日であったものを、昨年度から火・木曜日にも受診可能とした。脳ドックはそれに加えて土曜日に頭部MRI・MRA検査を行っている。人間ドック受診後、面談による結果説明を行い、精査・治療が必要な場合は一般外来へ院内紹介を行っている。外国人ドックも昨年同様に設定、訪日外国人旅行者を対象とし中国語に対応、診察・検査には通訳を付けている。検査結果報告書は日本語・中国語の両方で作成し画像を添付し受診者の理解に繋げている。アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査も継続して受注し、当院での二次精密検査に繋げ、有所見者は院内の各専門科に紹介している。

特定健診、後期高齢者医療健診および企業検診など各種健康診断は平日の午前中、泉佐野市民検診である骨粗鬆症検診は平日の午後、市民乳がん検診は日曜日に年6回、乳がん検診セットは平日の午後にそれぞれ予約制で

行っている。今年度から有所見者に対して結果通知と共に当院外来での2次健診の案内を添付し、当院の内科外来への受診を可能としさらに利便性の向上に努めている。指定航空身体検査は金曜日の診察を含め検査日を別途設け実施している。睡眠時無呼吸症候群の簡易スクリーニングは当院循環器内科における睡眠時無呼吸専門外来へ紹介しCPAP治療への橋渡しが可能となっている。特定健診受診後、保健指導対象者となった受診者には、初回の保健指導を後日の実施だけでなく、健診当日にも指導を行うようにし、生活習慣の改善によるメタボリックシンドロームの発症予防を目指している。いずれも有所見者は当院外来での治療に繋げ、発症予防に貢献している。その他、被爆者2世健診、海上保安庁、消防署、関空の検疫所等の職員の健診、就学時・就職時健診、企業の職員およびそのご家族の健診等を行っており、2次健診も含めて受診者の利便性の向上に努めている。

—実績—

2020年1月から急激に増加したCOVID-19の蔓延及びそれに伴うインバウンド顧客の消滅は健康管理センターに大きな影響を与えた。緊急事態宣言に伴う受診者の著明な減少が見られ、外国人ドックは皆無のままである。その状況でも厚生労働省通達や病院の判断に沿って感染予防対策を行い、受診者の健康チェック、検査室のソーシャルディスタンスの確保や什器類の利用ごとの消毒を行った。その結果、職員と受診者のいずれにも感染の発生は見られなかった。2021年度の健康管理センター利用件数は、延べ2,187件で昨年の2,161件から若干の増加となったが、内訳は表に示す通りで、人間ドックや乳がん検診が徐々に増加していた。健康診断や航空身体検査は横ばいの状態であった。

健康管理センター利用件数

	2019年度	2020年度	2021年度
人間ドック・脳ドック	839	653	700
オプション脳ドック	170	110	131
企業健診・一般健診	705	803	686
特定健診・後期高齢者健診	148	109	167
特定健診保健指導	50	46	9
乳がん検診(市民・自費)	177	108	166
被爆者健診	38	23	36
骨粗鬆症検診	66	61	49
一般予防接種・抗体検査	18	24	27
指定航空身体検査	39	65	62
外国人専用健診・ドック	13	0	0
アミノインデックス検査(検査後精検含む)	131	74	77
睡眠時無呼吸スクリーニング	39	31	30
大腸がん検診	19	37	39
アレルギースクリーニング	12	17	8
合 計	2,464	2,161	2,187

—今年度の成果と反省点—

昨年同様COVID-19の影響は存在するが、通達や学会ガイドラインや病院規定、さらに適宜最新情報を入手して感染防御に努め、結果として昨年度同様に一人も感染者を出さなかったことは職員の努力と受診者の協力の賜物で感謝すべきと考えている。健康診断・人間ドックとも昨年同様の状況に推移しており、更なる地道な努力が必要であることを痛感した。継続して人間ドック受診者の獲得と感染対策の両立に努めるべきと考えている。また、外国人専用健診についてもインバウンドの再開に伴い感染防御の観点を疎かにすることなく対応できるよう準備を進めたいと考えている。

—来年度への抱負—

感染防御の必要性は当分継続すると考えられるが、地域の健康管理の要としての存在は変わりはない。今回の経験を生かして、さらに受診者の増加に対応しうるシステムを確立し、人間ドックの充実や当院独自の健康診断をさらに広げたいと考えている。COVID-19の変異株の出現もあり見通しが立たない状況にはあるが、このような中でも地域の需要に対してしっかり応えていきたいと考えている。